

# 神奈川私学保連 NEWS



## 2022年度の活動について

神奈川私学保護者会連合会 会長 鴨下 博厚

(洗足学園中学高等学校 洗足会顧問)

新型コロナウイルスによる感染症は、発生から2年以上も経過しているにもかかわらず、その猛威は全く衰える気配がありません。この原稿を執筆している時点では、毎日の感染者数は過去最高を更新し続けており、感染症に対する有効な手立てがない中でどのように必要な活動を再開していくのか、非常に悩ましい状況が続いています。各学校の運営や保護者会の活動にも大きな影響をもたらしており、皆様には日頃から大変なご苦勞を続けられていることと拝察いたします。

感染症による未曾有の困難が続く中で、神奈川県私学保護者会連合会の2022年度の活動が始まりました。5月19日には3年ぶりに、定時総会を対面で開催することができました。一部総会後に報告・承認を受ける議題があったものの、議事は全て原案通り可決されました。各学校から多くの方々にご出席をいただき、総会が無事に開催・成立出来ましたこと、心から厚く御礼を申し上げます。

今年度は、武相中学高等学校から出向されていた稲葉夏美様と、横浜雙葉学園から出向されていた濱野弘規様が退任され、新たに2名の方をお迎えすることになりました。今年の役員には、現役のPTA会長が4名も加入してくださり、今まで以上に学校や子どもたちに寄り添った活動が出来るのではないかと期待しております。

今年度は、感染対策に十分留意しながら、

必要な活動をしつかりと再開していく一年にしたいと思っています。昨年度も発行いたしました「私学保連News」の特別編集版は、神奈川県私学にお子様を通わせている全世帯に、この時期だからこそお読みいただきたい情報をお届けできること、感染の拡大状況に左右されない手段であることから、今年度も発行を計画しています。皆様のお手元に届きました際は、ぜひ一読をお願いいたします。また感染症の拡大状況を見極めながらにはなりますが、2年間で止めていた講演会については、感染対策を講じながら開催していきたいと考えております。

さて、本年4月には神奈川県全私立中学相談会が、7月には神奈川県全私学展が、入場制限などの感染対策を行った上で、予定通りにパシフィコ横浜で開催されました。特に全私学展では、入場待ちの列が朝早くから続くほどの熱気に包まれ、神奈川県私学への期待の高まりを実感いたしました。

私立学校は、それぞれが独自の建学の精神を持ち、それに基づいた教育方針を掲げ、特色ある教育を行っています。各校の保護者会も、それぞれが独自の活動をされています。この私学の自立性・独自性こそが、コロナ禍でより鮮明になった私学への期待につながっているのは間違いありません。

一方で、よりよい教育環境の整備に必要な私学助成金の充実・拡充は、各私立学校に共通の課題であり、学校と保護者会の団

体が一緒になって行政に要望していかねば、なかなか前に進まないことでもあります。

9月7日には、県私立中高協会の役員の方々と一緒に県庁を訪問して、県と県議会に対し、私学助成の一層の充実・拡充を請願してまいりました。また11月には、神奈川県私学振興大会と、私学振興全国大会（主催：日本私学保護者会連合会）の開催が予定されています。

この会の最大の活動目的は、県内の私立学校に通う全ての生徒たちの教育環境をより良いものにしていくことにあります。コロナ禍で私立学校への期待が高まっている今だからこそ、本会の活動目的に明記されている「学校教育の充実発展に寄与する」ために、関係機関・団体と協力しながら、私学助成の充実・拡充を強く訴えてまいります。

この会の活動は他にも、主に県などが主催する会議・団体への役員の派遣、日本私学保護者会連合会・関東地区私学保護者会連合会との連携・協力など、求められる役割は広範に及んでいます。今年度も新しい役員の皆様と力を合わせて、充実した活動を続けてまいりますので、加盟校の皆様方には引き続き、本会へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

◆ 今年の7月には、日本私学保護者会連合会の総会・研修会が高知県で、8月には関東地区私学保護者会連合会連絡協議会が横浜市で開催されました。11月には日私学保連の青少年育成研修会が名古屋市中で開催されます。右記団体との連携などを含め、本会の様々な活動については、引き続き「私学保連News」紙上で報告してまいりますので、ご一読くださいますようお願いいたします。



2022年

# 定時総会の開催

## 神奈川私学の発展のために

3年ぶりの対面開催。5月19日（木）に私学会館講堂で開催しました。神奈川私学（小・中・高）の保護者会連合会の加盟校86校中、出席校23校、委任状提出校60校で総会は成立しました。

鴨下博厚会長の挨拶に続き、来賓として、私立中学高等学校協会の工藤誠一理事長（聖光学院中学校高等学校理事長・校長）からご挨拶をいただきました。議長に深谷祥子副会長が選出され、2021年度事業・決算報告と2022年度事業計画・予算が提案され、修正も一部ありましたが、原案通り承認されました。

役員改選について、役員推薦委員会の濱野弘規委員長より提案があり、14名の役員が承認されました。ウィズコロナで様々な事業が復活してきました。神奈川県私学保護者会連合会の加盟校、会員の皆様には、引き続き本連合会へのご理解とご協力をお願い申し上げます。



## 来賓挨拶

## 教育活動の躍動感を新たに

一般財団法人 神奈川県私立中学高等学校協会

理事長 工藤 誠一

（聖光学院中学高等学校 理事長・校長）



理事長の工藤です。3年間、保護者会連合会総会あるいは様々な催しを対面することができませんでした。そのため初めてお会いする皆様も多いかと思えます。お子様が卒業され、引き続き私学の教育に対して理解を示し、ご協力

いただいている保護者も多数いるかと思えます。いずれにしてもこの3年間コロナウィルス感染拡大は子どもたちに対して大きな影響を与えました。オンラインで授業する。学校が休校になる。行事がなかなかできない。学園祭や修学旅行などが延期になったり、中止になったりというところで、子どもたちにとっては二度と来ない十代、その移りゆく日々の中で、焦燥感にさいなまれたり、あるいは悔しかったり、そんな思いをたくさんしてきたのではないかなと思います。

その中でも、やはり子どもたちの力は大きいですね。前に向ってこういう躍動感を私たちは教育現場で感じています。今、この5月から修学旅行や学園祭、体育祭を始め少しずつ元の形に戻りつつあります。

この3年間、確かにいろいろな形で教育活動を展開することはありましたが、神奈川は私学発祥の地であり、私も全国に先駆けて様々な教育の取組をしていくのが、私も神奈川の私学であると思っています。不登校の生徒のための修学支援をこの神奈川私学会館で3年前から行っています。当初は4月開校の予定でしたが、コロナウィルスの感染で、発足は6月になりましたけれど、この年度になりまして、中高生40名弱の生徒が通って来ています。3年目になる子もいます。もちろん主たる目標は学校へ戻すことです。原籍校に戻るのが主眼であり、戻っている子もたくさんいます。修学支援センター機能を徐々に果たしているのではないかと思います。こ

のような修学支援センターが中高生向けにあるのは、福岡、京都、神奈川であります。京都の場合は授業をしていません。カウンセリングだけです。福岡は公立の学校の生徒も含めてということで県が一体となって始めたものです。この神奈川の修学支援センターは神奈川の私学対象にやっております。補助金の額は少ないですが、幸いにしてこの私学会館は財団法人で家賃もかからず、修学支援を割とすぐに始めることができました。その点で、先駆けて神奈川私学はできたと思っています。

また、神奈川の私学はコロナ対策の中学追試験を行いました。コロナで受験できなかった児童に対して、協会としての追試験です。加盟する学校のうち、20数校が登録をして、結果、当日受験を希望した者が10名いました。私学が中心となって追試験を行ったのは神奈川だけです。その点では近代私学の発祥の地、神奈川の面目躍如だったと思います。

さらに、昨年度、神奈川私学の先生方を対象に集団でコロナワクチン接種を行いました。二学期には各学校の生徒も接種できるというチャンスも作りました。つい先日終了しましたが3回目の接種もこの私学会館と聖光学院で接種を実施しました。これも先駆けて神奈川私学は取り組んできました。

このような様々な取組の結果、高校入試においても、お陰様で多くの公立高校が定員割れを起こしているのに対し、私学の定員は現在きちんと充足しています。そういう傾向が出ています。かつて20年くらい前に「学費の差が無ければ私学を選びます」とアンケートに出していました。就学支援金や学費援助が充実してきた中に、まさにそつした傾向が出ています。

神奈川の私学、それぞれの学校が独自の建学の精神をもって、日々教育活動を行っています。一方でやはり今の時代においては、各学校がネットワークを組んで、教育を行っていくことが大切であろうと思っています。今まで申し上げた、修学支援や追試験は継続して行いますが、実際の教育活動の場面でも一層実行していきたいと思っています。コロナウィルスが始まる前に、神奈川県がメリーランドと姉妹都市の関係で、メリーランド州立大学での語学研修、あるいはメリーランド州立大学の学生をアシスタントティーチャーと呼ぶなどをしていました。今はコロナで中断していますが、間もなく再開してい

たいと思っています。また、神奈川は大連とも姉妹都市で、大連との交流を今年はオンラインで行うことになっています。グローバル化の中で、一校だけではできないものを、これからもネットワークを組んで、各校がより連携して、子どもたちに対して様々な教育を受けさせる。それも子どもたちの適性に合った教育を受ける機会をこれからも進めてまいります。

そのためには皆様方のご理解とご協力が肝要なことになります。引き続き、神奈川私学に對しまして信頼していただき、ご協力を賜りますよう、切にお願いをいたしまして挨拶いたします。どうぞこれからもよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

## 特別講演会

### 「能楽にみる日本のこころ」

金春流能楽師 山井 綱雄 様

3年ぶりの特別講演会。能楽協会や『能楽を通した日本の美・心』の映像資料を視聴しながら、1時間にわたる講演をしていただきました。最後には、高砂の舞の披露。一気に幽玄な世界に導かれました。

私は藤嶺学園藤沢中高の出身、そのご縁でこの講演会を引き受けました。子をもつ親として、これからの未来を担う子どもたちに、日本の心をどうやって伝えていくか日々活動しています。

能は遠い存在と思われませんが、実は能の内包している心というのは、今現在地球規模で我々が直面している現在の困難、その答えの拠り所として考えられます。

では、能とは何か。「天下泰平」、能楽はこの言葉に集約されます。皆平和で楽しく暮らすことができること、それを祈念すること、そして幸せは全ての人に平等に分け与えるべきであるとの考え方、これが能楽の根本精神になります。

次に能のミッションは、多様性を認め合うということ、多様性の享受は実は能楽をはじめとする、日本の伝統文化の特徴だ



と思われる。「和をもって尊しとなす」の考え方です。想定外の事態が次々と起こる今の世界、能楽に現われた世界を描くことで、良き方向に変えることができるはず

です。

能の価値とは何でしょうか。全ての人がそれぞれのとらえ方で天下泰平を願い、多様な世界観を受け入れ、解釈を押しつけるようなことはありません。「このように見なけりやダメ」とか「こんな見方ではいけません」とかそういうことは無いわけです。何所を見て何を感じるか、どうするか、人それぞれ違っているのです。自分なりに楽しみ方を見つけてみましょう。

楽しみ方の一つとして、至高の芸術品、装束、面、楽器、そして能舞台の建築から扇、足袋に至るまで舞台上のあらゆる物が、本物の職人によって、本物の技術と本物の素材にこだわって作り上げられた美術品。演者がそれを身に着けるとさらなる光り輝く美術品になることが見て取れます。付加価値とも言えます。

能の価値をあげていきましょう。一つ目は、「表情豊かな人間模様」、ヒューマンドラマを見えるような、感情をゆさぶられるような体験がそこにあります。能楽には悲劇と喜劇を一度に見られる珍しい表現形態です。百種類を超える能楽、狂言は様々な心を打ち出します。

二つ目は、「由緒正しい神聖さ」、お寺へお参りするような、凜とした空気、そういうところに背筋が伸びるような感覚が、神聖な空気感を全身で感じる体験、能楽の源流はそもそも神仏に捧げるといふ神事、法事、その芸能からスタートしたことが原点です。

三つ目は、「離子と謡（うたい）」が響き合う世界、美しい謡を奏でる能の離子、楽器、これは音を超えた気迫と静けさの中の音楽の世界であります。西欧音楽とは違う間の芸術であります。間がなくなるから「間抜け」になり、間が延びると「間延びする」ですから、それだけ間の空間が大切です。

四つ目は、「典型的な見立ての表現」、見立てのないものがあるように感じること、何もない能舞台には自然の四季の移ろいが次々と現われます。茶道、華道など日本文化に深く根強く、「見立ての文化」、無いんだけどそこにあるように見立てるといふ文化の底流というものがそこにあります。

五つ目は、「伝承された精神」、数百年に亘って養われた生きた教え、世阿弥や先人たちの言葉を現代の人々にも普遍的に当てはまる言葉ばかりです。人生の教え、学

びの言葉が世阿弥の中にあります。あとで見ていただく映像の中でも、そのことを紹介したいと思います。

最後に、六つ目、「見て楽しむ、演じて楽しむ」、観客として舞台芸術を能楽として楽しむ、もちろんその先には自ら、お稽古して体験し、その中に見える世界も広がっていくこともあります。ということで、このあと映像をみていただきます。能楽が育んできた世界観について、これから映像の中で見ていただきたいと思っています。

能楽を通した日本の美・心 映像本編日本語版（フルバージョン 16分）

<https://www.nohgaku.or.jp/encyclopedia/movies>

※視聴しながら、随所随所解説をしていただきました。幾多の天災や戦火の危機を乗り越えながら、およそ700年変わらぬ芸を保ち続けてきた能楽は、これからも日本の美と心を伝承し続けていくことでしょう。いかがでしたか？興味をお持ちになりましたら、ぜひ能楽堂へいらしてください。

ご紹介の能楽の中には多様性を認め合う心、みんなで仲良く共存していく心、そしてそのためには、白と黒どちらかではなくて、グレーの世界が存在している考え方なのです。これがある意味、日本の文化の素晴らしいところだと思います。日本人はこの島国の中で、外国からとり入れたものをうまくアレンジメントし、そして感性と感覚が研ぎ澄まされた豊かで手先が器用で、そして集団性を重んじる民族性によって、世界で稀有な文化を持ちました。これからの時代を担っていく子どもたちに、こういう日本の素晴らしい面を理解させた上で世界に飛び出せれば、日本はまだ捨てたものではない。日本は復活できる。日本人のアイデンティティをしっかりと持つてほしいのです。コロナで日本はダメだという人はいますが、私は決してそんなことはないと思っています。

日本はこれだけの素晴らしい文化を持っていることを、今一度教育の観点から見つめなおして、若い人たちには知ってもらいたい。そして素晴らしい日本を創っていただきたいと思っています。

最後に私から皆さんの幸せをご祈念いたしまして「高砂」を舞わせていただきたいと思います。





## 特別講演会 感想

監事 木村 美佐

(鎌倉女学院中学校・高等学校 家庭会顧問)



3年ぶりに対面で開催された定時総会のあと、「能楽にみる日本のこころ」と題して、金春流能楽師の山井綱雄（やまいつなお）氏による講演が行われました。「能楽は世界最高の芸術である」との信念の下、能楽普及と「日本の心」の啓蒙に奔走しているそうです。

山井氏は能楽師のユニフォームである紋付き袴姿で登場されました。

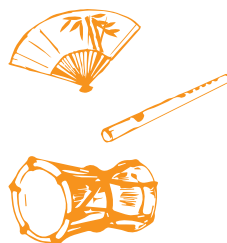
能と狂言を合わせて能楽といい、かつては日が昇り沈むまで、ジャンルごとに決められた順番で一日かけて上演されていたことには、驚きました。古来、日本人は多様な世界観を認め、そして受け入れてきました。能楽は様々な人間模様を描くことで、多様性を認める和の心を伝え、「天下泰平」を願ってきました。

また、人々の悲しみを鎮め、明日への希望を願う「祈りの芸術」でもあるとのことでした。地球規模の不安が多い現代、その和の心がとても大切なものを感じられました。室町時代に能の世界を打ち立てた世阿弥のことばに「初心忘るべからず」があります。習い始めのいわゆる初心者のときの気持ちを忘れないということだけでなく、常に自分は初心者で、未熟であると思い、物ごとにあたるということだそうでした。また、若いときの花は偽りの花であり、鍛錬と工夫を経て老いたときに咲く花が本物の花のお話がありました。

これらのお話は、日常生活や習い事など慣れで続けて、努力を怠っている自分自身を反省するきっかけとなりました。その年々に花を咲かせられるよう、日々取り組んでいきたいと思いました。



お話を伺って、能楽はすべての人がそれぞれの捉え方が出来、自分なりに楽しめると感じました。能楽の舞台は舞台装置が少なくシンプルなのところが、能楽を観る人が自由に捉えて楽しむことが出来る仕掛けのような気がします。これまで馴染みがなく、言葉遣いも現代のものではないので難しく考えていた能楽が、身近に感じられるようになりました。



## ●2022年度 神奈川県私学保護者会連合会 役員

| 役職名   | 氏 名   | 所属団体名・役職名                |
|-------|-------|--------------------------|
| 会 長   | 鴨下 博厚 | 洗足学園中学校・高等学校 洗足会顧問       |
| 副 会 長 | 深谷 祥子 | 藤嶺学園藤沢中学校・高等学校 PTA 担当役員  |
|       | 加賀美博之 | 聖光学院中学校・高等学校 後援会理事       |
| 理 事   | 鶴岡 和雄 | 横浜清風高等学校 PTA 常任顧問        |
|       | 青木八重子 | 横浜学園高等学校 後援会副会長          |
|       | 米本 麻紀 | サレジオ学院中学校・高等学校 保護者会副会長   |
|       | 坂本 綾  | 柏木学園高等学校 後援会             |
|       | 鬼頭 毅  | 鎌倉学園中学校・高等学校 鎌倉学園 PTA 会長 |
|       | 阿部 浩  | 武相中学・高等学校 PTA 会長         |
|       | 飯塚 昇  | 横浜女学院中学校高等学校 PTA 会長      |
| 会計理事  | 吉成みち子 | 横須賀学院中学校・高等学校 教育賛助会会長    |
|       | 浅見 昌弘 | 立花学園高等学校 PTA 参与          |
| 監 事   | 木村 美佐 | 鎌倉女学院中学校・高等学校 家庭会顧問      |
|       | 庄司 由紀 | 横浜富士見丘学園中学校・高等学校 PTA 会長  |



2022年度役員



## 新役員紹介

新理事

**阿部 浩**  
あべ ひろし

(武相中学・高等学校PTA会長)



このたび、神奈川県私学保護者会連合会の理事に就任いたしました阿部浩と申します。私には、息子一人と娘二人がおりまして、いずれも私学にお世話になっております。私自身も私学の出身ですので、私学校の厳しさは将来必ず役立つ教えであり、力強く歩む原動力になると考えております。現在の日本は少子化が進み、男子校あるいは女子校の共学化と各校の伝統や文化にも変化が見られるようになりました。そのような中、武相中学・高等学校のPTA会長を任せられておりますので、共学化についても多くご質問を受けておりますが、本校の場合はまず校歌から変更しなければならなりませんゆえ、現状のところそのような改革は行わない方針です。武相中学・高等学校は本年6月で創立80周年を迎えました。

横浜市港北区の小高い丘に位置し、武相の名前の由来は、武蔵国と相模国の山野が一望に見渡せるというところからでありまして、現在は、みなとみらいと富士山が見渡せる恵まれた環境にあり、グラウンドも人工芝とスツキリしております。また、多くのスポーツ選手や有名芸能人を社会に輩出し、歴史と伝統がある学園です。私はそこまでの影響力はないですが、横浜で数十年会社を経営しております。その根底にあるのは「武相魂」つまり、不撓不屈の精神です。

血気盛んな時期に、厳しくも温かく導いて下さった先生方のおかげで現在の私が存在します。その一人が現校長の矢口浩幸先生でもあり、この太いパイプを生かしてPTAとの橋渡しはもちろんのこと、私学保護者会連合会を通じて私学のために恩返しができるしたらこれ以上の喜びはありません。

どうぞよろしくお願いたします。

新理事  
**飯塚 昇**  
いづづか のぼる

(横浜女学院中学校高等学校PTA会長)



今年度、ご縁を頂き、新たに理事となりました飯塚昇と申します。現在、横浜女学院中学校高等学校でPTA会長をしております。私には高校3年生と中学2年生になる2人の娘があり、いずれも横浜女学院にお世話になっております。横浜女学院入学以前は、2人とも地元横浜市の公立小学校にあり、私自身も昨年6月まで横浜市PTA連絡協議会という27万会員で構成される保護者組織で副会長をしておりました。横浜市の教育行政に、諮問委員のような形で保護者の立場から意見を述べさせて頂く機会も多く、昨今巷間言われますPTAに関する諸問題にも取り組んでおりました。

一方で、横浜女学院においてPTAや、父親たちの組織Parents' Clubの活動を通じて、公立校と私学の違いを様々な場面で感じておりました。それは学校の方針運営は勿論ですが、保護者の気質、考え、学校に寄せる期待などに至るまで多岐に渡り感じるところでした。私自身は小学校から大学、研究員まで、公立校のみの経験しかなく、初めての私学経験という事で、娘たちの成長を見るにつけ、私学独特の良さを今更ながら実感し、学校に感謝しているところです。

また、横浜女学院は横浜私学女子校が多くあり、独特の雰囲気を持つ山手の丘にあります。私は学生時代、当時ダサいと言われ続けた埼玉県にあり、横浜というのはある種の憧れの地でありました。ドライブなどではわざわざ山手の丘を目指したものでした。それが現在、自分の娘たちが山手の丘に学び、またその学校の保護者組織に関わることになるとは当時は想像すらできない事でしたので、感慨に近い感覚を覚えます。

そして、この度、神奈川県私学保護者会連合会に関わらせて頂く機会を得、大変微力ながら、今までの経験を生かして何かしら皆さんのお役に立てればと思っております。娘たちの健やかな成長の場を与えて頂いた学校や、県内各私学保護者組織を支えて頂いている保護者会連合会にご恩返しができるのであれば、私にとって望外の喜びです。何卒、宜しくお願い申し上げます。

## 関東地区小・中・高等学校 保護者会連合会理事会

6月24日(金) 横浜ロイヤルパークホテル

関東地区私立小・中・高等学校保護者会連合会連絡協議会は、関東各県(神奈川県・埼玉県・群馬県・栃木県・茨城県・千葉県)の私学保護者会連合会で構成されます。その目的は、日本私立小学校中学校高等学校保護者会連合会(日私学保護)との親睦と連絡協力を図り、保護者の立場から私学振興に寄与するものとする。また、次の団体と緊密なる連携を保ち、または協力するものとする。

- 1 全国都道府県の私学保護者会
- 2 日本私立中学高等学校連合会(中高連)
- 3 関東地区私立中学高等学校協議会
- 4 全国都道府県の私学協会
- 5 日本私立小学校連合会

この会は、毎年度各県持ち回りの定例会を開き、会則の改正、役員の選出、会務の報告、事業及び予算案の審議及び決算の承認、その他重要事項を審議決定し、今年度は神奈川県に開催県にあたります。

理事会では

- (1) 関東地区私学保連「会長・副会長」及び日私学保連「理事候補者」の選出について
- (2) 関東地区私学保連令和3年度事業報告及び収支決算報告報告(案)並びに令和4年度事業計画及び収支予算について
- (3) 令和4年度関東地区私学保連代表者会及び研修会開催計画について協議されました。全て原案通り承認されました。

神奈川県は8月26日(金)に行われた令和4年度関東地区私学保連代表者会及び研修会を担当しました。当日は神奈川県私学保護者会連合会の役員が運営を担当しました。

研修会では、神奈川県私学に縁のある俳優・朗読座主宰、紺野美沙子様に演題「心に響く言葉を伝えよう」で講演をしていただきました。

※8月26日(金)の代表者会及び研修会については、12月15日発行予定『神奈川県私学保連ニュース特別編集版』に掲載する予定です。

# 日私学保連総会・研修会 高知大会

7月7日(木)～8日(金)

昨年度は、神奈川県青少年育成研修会の席で、日私学保連の臨時総会が開かれましたが、このように県が単独で開催するのも3年ぶりです。副会長2名がレポートします。

## 第1日目

副会長 深谷 祥子

(藤嶺学園藤沢中学校高等学校PTA担当役員)



例年より早く梅雨明け宣言が出ていたものの、蒸し暑く曇り空の7月7日、8日に、日本私立小学校中学校高等学校保護者会連合会主催の令和4年度総会・研修会(高知大会)に、鴨下会長、加賀美副会長、山事務局次長と共に出席して参りました。

コロナ禍の中、書面総会が続き、3年ぶりの開催でしたが、このたびの高知大会は、文部科学省からもご出席いただき、日私学保連の大会では、行政からご出席いただくのは、初めてのことでそうです。

総会は、日私学保連、門傳英慈会長の会長挨拶に始まり、文部科学大臣の代理として文部科学省森見憲部長、衆議院議員尾崎正直氏、高知県知事濱田省司氏、高知県議会議長明神健夫氏、日本私立中学高等学校連合会会長吉田晋氏からご祝辞をいただき定時総会に移りました。

総会テーマは、「今こそ私学から発信！教育が未来を拓く」21世紀(あす)を担う子どもたちのために――

定時総会に続き、中高連吉田会長の「私立学校を取り巻く状況について」という演題の講演を伺いました。私学助成の法体系や、私立と公立における教育費(生徒一人当たり)のイメージなどわかりやすい資料とともに示された講演でした。



私学助成を広く訴える場として、全国私学振興大会は、この2年出席人数を絞って開催されてきましたが、神奈川県振興大会は今年3年ぶりの開催となります。気持ちも新たに、盛会となりますよう準備を進めていきたいと思っています。

## 第2日目

副会長 加賀美 博之

(聖光学院中学校高等学校後援会理事)



高知大会2日目です。元東大野球部監督の浜田一志氏により「文武両道のすすめ」という講演がありました。

浜田氏は高知県出身。小4から野球を始め、土佐高校から東京大学入学後、東大野球部では主将を務めました。卒業後は民間企業に勤務後に学習塾「Ai西武学院」を創業、2013年から6年間東京大学野球部監督に就任しました。就任当時、東大野球部は連敗街道真つ只中でしたが、監督業と並行して全国をスカウトでまわり、甲子園経験者などの高校球児に学習メソッドを伝授し東大に合格させ野球部に入部させるなど、野球部の強化に努め、連敗を94連敗で止めることに成功し、退任までに9勝をあげました。(野球界の「ドラゴン校」と言われ「ドラゴン校」の監修にも携わったそうです。)

講演の内容をまとめると以下の通りです。

### 【文武両道とは】

オリンピックで金メダルをとりノーベル賞をとるということではなく、「多様性」の中で努力を続けること。

### ●10代は

アイデンティティ(私とは何か)を探る時期

自分という存在を理解し、これから先の人生をどう生きたいかを探る

自分が、何が得意なのかを探る時期

勉強でもスポーツでも音楽でもなんでもいい。つまみぐいでもいいのでいろいろなことをチャレンジしてほしい。そうしないとわからない。

↓そのための第一歩はレッテルを剥がすこと。自分はこうだと決めつけない。  
どんなレッテルを剥がしてたくさんチャレンジしてほしい。

### ●なぜ部活をするのか

- ・同級生がいる(仲間と切磋琢磨する)
- ・先輩がいる(自分がお手本となるよう自己を洗練する)
- ・先輩がいる(身近なお手本がいる)

### ●部活と勉強の両立のコツ

- ・モチベーションをたもつ(親や仲間の存在)
- ・身近なお手本をみつめる(最初は真似ることから始める)
- ・疲れている時でも読める本を見つめる(自分の興味があるものをいかにみつめていくか。学習の習慣にもなる)
- ・授業に集中する

### ●勉強でも得意科目を磨く

得意科目ができることで他の科目にもいい影響を与える  
↓部活に忙しい時にも有効という内容でした。

先生の話聞いていて、親の私たちも「うちの子はこんなことできるのだろうか?」という先入観を捨てて、子どもが「〇〇をやってみたい」ということがあれば、まずは応援をしてあげることが子どもの可能性を伸ばす近道なんだと、たいへん共感できました。

1時間たらずの講演でしたが、先生のお話はいへんおもしろく、もう少しお話を聞いていたと思う事を講演でした。

最後に話はそれますが、高知県はおもてなしの文化の町で、高知県私学保護者会連合会のみなさんには2日間に渡り終日とても親切にしてください。高知がとっても好きな県になりました。高知県のみなさん、本当にありがとうございました。





# 私立学校への「経常費助成補助」の増額を求めて

9月7日 神奈川県庁新庁舎

## 敷田博昭県議会議長へ請願・署名を提出

私立中学高等学校協会役員4名と私学保護者会連合会の役員2名が県庁を訪問し、私立学校の保護者負担の軽減と各校の教育条件の維持向上に向けて、私学への「経常費助成補助」の増額等の要望を県議会議長に提出しました。

6月10日に全加盟校にお願いした「経常費助成補助」に関する署名は、全校の学校・法人・保護者代表から249名が集まり、県新庁舎の議長室において、中高協会理事長の工藤誠一理事長と保護者会連合会の鴨下博厚会長が代表して、敷田博昭県議会議長に提出しました。



## 請願の理由

神奈川県は私学発祥の地であり、県下の私立中学校・中等教育学校・高等学校は、独自の伝統と校風を守り、建学の精神を現代に生かし、有為な人材の育成に努力し、本県教育の充実発展に貢献してまいりました。

幸い、本県においては、私学に対し、知事をはじめとする県当局並びに県議会議員の皆様の深いご理解とご支援のもとに、私学助成の充実が図られてきました。

さて、今日、私学経営はますます厳しい時代に入っております。とりわけ経常費補助金については、全国的に見ると未だ生徒一人当たりの単価は、高等学校（全日制）、中学校、中等教育学校ともに国の財政措置額を大幅に割り込み、全都道府県の中で最低の水準にあります。しかしながら、神奈川県は県下後期中等教育の約三分の一という役割を担っていることから、県下教育を担当している責務の重大さを痛感し、県民に信頼される個性豊かで、特色・魅力ある学校づくりのため、一層努力する所存であります。

つきましては、令和五年度私学助成に関し、左記の点に格段のご配慮を賜りますよう、お願い申し上げます。

## 請願の内容

一、令和五年度の経常費補助については、一層の増額をお願いしたい。

## 3年ぶりの開催

4月29日（金・昭和の日）全私立中学相談会  
7月18日（月・海の日）全私学展

事前申込制を取り、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策を講じ時間制で実施されました。



入場者、全私立中学相談会は 5,120 人  
全私学展は 16,859 人 好評でした。



開場前からご来場の方の長い列ができ、  
私学に対する期待が窺えます。

## ご存知ですか? 「特別自治市構想」

「特別自治市構想」について、神奈川県と横浜市、川崎市、相模原市の3つの政令都市との間で検討されているようですが、その内容について、私たちになかなか伝わっていないどころか、初めて目や耳にする方も多いと思います。構想の内容は一言で「指定都市が県から独立」という考え方で、政令都市側の考えは①県と指定都市間の「三重行政」を解消し、②大都市特別事務に関する「税制上の不十分な措置」も解消できるというものだそうです。一見よさそうな構想ですが、実際に子どもを私学に通わせている私たちに、さらに子どもが通っている学校にどのような影響があるのか、よく考える必要があります。

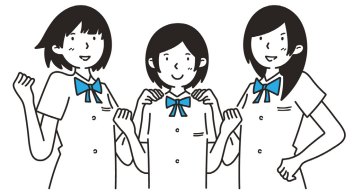
## 《神奈川県私学全体の立場で!》

神奈川県私学保護者会連合会は、加盟校すべてが特色ある教育活動を行い、そこに通う子どもたちが学校生活から多くのことを学び、大きく成長することを願っています。そのためには各校が安定した学校経営がされることが大切で、保護者会連合会はそのために様々な活動を行ってきました。特に県から各校への経常費補助については、県会議長への請願署名や神奈川県私学振興大会で、神奈川県に経常費補助の増額を強く訴えてきました。他県と比較するとその額はまだまだ少ないですが、県知事をはじめ神奈川県は私たちの声に少しずつ応えていただけるようになってきました。これは保護者会連合会に加盟するすべての学校が一つになって取り組むことで実現できていると確信しています。

今回の「特別自治市構想」で考えられていることで、私たちが訴えてきたことが今までと同じように受け入れていただけるか甚だ疑問が残ります。ある地域の学校が優遇され、ある地域の学校では経営が厳しくなるような状況は、私たちの今までの活動とは相反することになります。前述したように、加盟校すべてが等しく必要な経常費補助が受けられることを含め様々な課題について、これからこの構想を注視していく必要があります。

## 「特別自治市構想」は各ホームページで

特別自治市構想の詳しい内容は、神奈川県や各政令都市の公式ホームページから「特別自治市構想」で検索し確認をしてください。



## 2022年度主な行事の出席

- ◆ 4月29日(金・祝) 2022全私立中学相談会 \* 於パシフィコ横浜
- ◆ 5月10日(火) 2021年度会計監査 \* 於私学会館(吉成・浅見会計理事、木村・稲葉監事)
- ◆ 5月19日(木) 2022年度総会・特別講演会 \* 於私学会館(全役員)
- ◆ 6月24日(金) 関東地区私学保護連理事会
- ◆ 7月7日(木) 8日(金) \* 於横浜ロイヤルパークホテル(鴨下会長・深谷副会長・加賀美副会長)
- ◆ 7月18日(月・祝) 2022全私学展 \* 於パシフィコ横浜
- ◆ 8月4日(木) 神奈川県公立高等学校協議会 \* 於私学会館(鴨下会長)
- ◆ 8月18日(木) 理事長・校長研修会 \* 於崎陽軒本店(鴨下会長・深谷副会長・加賀美副会長)
- ◆ 8月23日(火) 事務長会夏季研修会 \* 於ホテルプラム(鴨下会長・深谷副会長・加賀美副会長)
- ◆ 8月25日(木) 神奈川県公立高等学校協議会 \* 於神奈川県自治会館(鴨下会長)
- ◆ 8月26日(金) 関東地区私学保護代表者会・研修会神奈川県大会 \* 於横浜ロイヤルパークホテル(全役員)
- ◆ 9月7日(水) 県議会議長への請願提出 \* 於県新庁舎(鴨下会長・深谷副会長・加賀美副会長)

## これからの行事予定

- ◆ 11月9日(水) 私学振興全国大会 \* 於アルカディア市ヶ谷
- ◆ 11月18日(金) 青少年育成研修会 愛知大会 \* 於名古屋市
- ◆ 11月28日(月) 神奈川県私立中学校・高等学校振興大会 \* 於パシフィコ横浜国際会議場

## 3年ぶりに開催! 振興大会!!

新型コロナウイルス感染症のため開催が中止になっていた神奈川県私学振興大会が、今年度は各校の参加人数を制限しながら開催が決まりました。今年も引き続き「保護者の願い」を神奈川県に伝えたいと思います。

- ◆ 2022年11月28日(月) 14時開始
- ◆ パシフィコ横浜国際会議場